

# 高卒就労、企業ニーズ把握

## 中原教育長が「直談判」

### 同友会との勉強会初参加

大阪府教育委員会の中原徹教育長が、高校生らの将来的な就労を視野に、企業が求める力を聞き取り調査する方針を示したことを踏まえ、府教委は中小企業と学校関係者らで開く勉強会に参加するなど、異例の対応で調査に臨んでいる。13日には、中原教育長自身も中小企業らでつくる経済団体の勉強会でグループ討論に参加。教育長がこうした会に「出席者として加わるのは「初めて」（府教委）とみられる。

（加星宙磨）

### 府教委、環境整備へ本腰

企業と求職者の求めと府教委のメンバー5人のミスマッチなど、若者をめぐる雇用環境の問題が山積みする中、中原教育長は4月の府教育委員会会議などで「これまで企業の求める能力の分析は抽象的で、カリキュラムに反映できていなかった」と指摘。まず6月まで企業の聞き取り調査をして掘り下げて分析し、その結果を教材作成などに生かす方針を示していた。

13日には、大阪府中小企業家同友会が大阪市天王寺区内で開いた、経営者と高校の進路指導担当者らによる勉強会に、中原教育長と府教委のメンバー5人が異例の形で参加。同団体による勉強会は継続的に行われてきたが、府教委の参加は本紙の橋渡しがきっかけで実現した。

勉強会には約110人が出席。「共に育つ企業と学校づくり」をテーマに経営者と校長によるパネルディスカッションが行われた後、参加者は5、6人のグループに分かれ、具体的な課題や対策について意見交換をした。

中小企業経営者や高校の進路指導担当者らと議論を交わす中原教育長（右から2人目）



13日午後、大阪市天王寺区  
路指導担当者らによる

への柔軟なカリキュラムの在り方を強調していた。

こうした提案について教育関係者や経営者から賛同の声が大半を占める半面、「地理や歴史など、高校で教えたければその生徒は一生その内容を勉強する機会がなくなる可能性がある」とさし加減を求める声もあった。

中原教育長は「企業のニーズをまだまだ把握できていない点がある。多くの聞き取りが必要」と意欲を示していた。